今日のイラスト 330　「 イラストでたどる萩往還⑪ 五文蔵峠付近」　　古谷眞之助

本文にも書いていることだが、釼切の集落から五文蔵峠を振り返るこのシーンは、萩往還の中でも最も気に入っている場所の一つである。昨年数回ほど海外からのお客様を案内したが、そのほとんどがこの地点を通過するコースだったので、ここで何枚か記念写真を撮ってもらった。里山的風景の広がるここは、一押しの場所の一つなのである。小さな谷のささやかな田畑が小気味よい程無駄なく利用されていて、いつも手入れに怠りがない。この場所に限らず、萩往還沿いの田畑の畔や家屋の周囲はどこであろうと、そこにお住まいの皆さんの性格そのものを表すように、実に奇麗に雑草が刈り込まれているのが常だ。そして本文に書いたように、撮影場所のすぐ近くの家の老夫婦は、ガイドを始めた 10 年前、いつも近くで作業をされていて、挨拶すると必ず気持ちの良い挨拶を返していただいた。本文にはいまだご健在のように書いてしまったが、そう言えば、ここしばらく挨拶した記憶がない。或いはすでに入院でもされておられるのかも知れない。ただ息子さんがしっかり跡を継がれているようで、相変わらずの手入れぶりには頭が下がる。手入れと言えば、ここから佐々並に向かう途中にある千持垰付近もそうで、そちらは長らくおじいさんがたった一人で熱心に手入れされていた。カエデやアジサイが植えられ、近くの小川にはシシオドシまで作られていて、そこを通るたびに風情のあるその音を聞いたものである。そのおじいさんの田圃も今では荒廃し、シシオドシの音が聞かれなくなって久しい。そのことを思い出すと、ついつい思い出される一首。「滝の音は絶えて久しくなりぬれどなほ余りある昔なりけり」（2020.2.27 記 ）

イラストでたどる萩往還 11　五文蔵峠付近

文・イラスト＝古谷眞之助

一升谷を歩き通して標高346㍍の五文蔵峠を越えると、釼切の集落に出る。釼切とは「その昔、深山のため釼にて道筋を切り開いた」ことに由来するという。峠を越えた所にも、特に保存状態の良い石畳が残っているので必見である。

この集落から峠を振り返るシーンは萩往還の中でも最も好きな場所の一つ。それも田植え時が一番である。これは萩往還沿いの集落のどこにも当てはまることだが、畦道や家屋周囲の草刈りが気持ちの良い程徹底しており、その中でもここは群を抜いている。じかもそれを担っておられるのが近くの老夫婦と知って益益嬉しくなった。出会えば必ず挨拶してくださる素敵なご夫婦である。